

園名（ かすがこども園 ）

【各園の特色や今年度、園として頑張りたいところ】

- 園内研修を実施している。「ユニバーサルな教育・保育」を目指している。
- 支援が必要な子にとっての配慮は全ての子に優しい。そんな教育・保育になれば良い。
- どのクラスも頑張っている。担任も毎日試行錯誤している。

	担当委員より
教育 ・ 保育内容	昨年に引き続き、園全体がより良い保育をしていこう、共に考えていこうとする職員集団の雰囲気を感じられる。全体として子どもの主体的な遊びを大事にした保育が行われており、組織として大事にしたいこと保育者一人一人と共有され、実践されている。 0・1歳児では、広い保育室ではあるものの、大きく4つのスペースに仕切られ、0歳の遊びを充実したコーナー、体を使って遊ぶコーナー、指先を使って遊ぶコーナー、大きな遊具の中に入って遊ぶコーナーに分かれている。そこに保育者が必ず一人は付き、安全にかつ好きな遊びができるように保障されている。0・1歳児でも集中して遊ぶことができるように、人的・物的環境に工夫がなされている。 2歳児のクラスは、保育室が縦に長く、遊びスペースの確保のために、試行錯誤しながら環境を整えている。指先を使って遊ぶ玩具が数多く手作りされている。「遊びこむ」ということができる環境を考えて必要な玩具の数を準備している。 3歳児では、一人一人が好きな遊びを楽しめるような保育を土台に、つながりあって自分たちで遊びを楽しめるように保育内容や環境を工夫している。ごっこ遊びでは、多くの店を展開され、子どもたちがやりたい気持ちを尊重して、遊びが展開されていた。 4歳児も、ごっこ遊びやそれにかかわる制作活動に取り組む中で、子どもたちのやりたいことを尊重しながら多くのごっこ遊びが展開できるようにされていた。工夫をしながら遊ぶことができるような言葉がけもされていた。 5歳児では、年長児らしい想像力や創造力を発揮できるような保育内容や保育環境の工夫がなされており、一人一人の育ちが保障される保育と言える。小学校を見据

	えた話し合いなども行われている。 毎年、園全体でどのクラスでも、1回目の指導訪問での助言を踏まえて環境の工夫を行い、子どもたちの思いが実現できるように保育を構想し、保育の質を向上させたいという意欲が見られる。園長・主幹保育教諭を中心として、職員間で連携や情報共有を意識されていることも感じられた。引き続き保育者同士の対話を大事にしながら、さらに質を高めていくよう、尽力していかれることを期待する。
教育課程の編成	・内面を大切にする保育が行われていて、良い取組をされている。 ・西脇市就学前教育・保育カリキュラム及び、こども園の理念、保育の方針や目標に基づいて教育をされているので、次年度以降「カリキュラムに基づいて」という一文を入れると良い。
安全管理 ・ 防災教育	・園職員が臨機応変に行動できるようにすることは難しいが、そこを意識してされていてとても良い。 ・不審者についての訓練は今の時代に子どもの安全を守るために、今後も継続してほしい。
家庭 ・ 地域との連携	・園カウンセラーの活用については、保護者はもちろん保育者も悩みなどを相談することができているため、今後もそのような活用が継続できていくと良い。
職員の 資質の向上	・園内研修などを行い、職員一人一人の負担がかからないよう配慮し、チームとして質の向上に努められるような内容を職員全体で相談しながら検討していき集団の力をあげるとよい。密にかかわろうとされている。
食育 ・ アレルギー対応	・対応は十分されている。引き続き、給食提供前にアレルギー疾患児除去食の確認を複数の職員で行う。担任の先生の意識を高め、職員のトリプルチェックを行う。
関係者評価の 取り組み	・問題なし。今の状態を継続する。